

一般入試前期A日程1日目

国語

一

出典 青木保「多文化世界」(岩波書店 2003年)

「歩ける」都市が人の快適な生活とどのように関わるかを述べた文章です。難解な用語もなく平易な文章です。それだけに設問から解答を導き出そうとする姿勢で臨むと正答ではない選択肢を選んでしまうことも多くなります。本文全体を読んでから解答するようにしましょう。

問1【漢字の書き取り問題】(解答番号は①～⑦)

a 発揮 b 先行 c 弾圧 d 一説 e 緩和 f 物騒 g 間隔

読みにくい字で書かれている答案が多かったです。他人が見ても分かるように丁寧に書くことが大事です。全問正答率は5%でした。

問2【空欄補充問題・前後の文脈から適語を選ぶ】(解答番号は⑧)

空欄 **ア** は前段落最後の一行にある「周辺の道路や地下鉄への配慮は何もされていません」がヒントです。正答は⑤です。⑦は、社会問題とまでするのは言い過ぎになります。正答率は63%でした。

問3【空欄補充問題・前後の文脈から適語を選ぶ】(解答番号は⑨)

空欄 **イ** は、前段落の内容を押さえる必要があります。正答は③です。正答率は68%でした。

問4【空欄補充問題・前後の文脈から適語を選ぶ】(解答番号は⑩)

空欄 **ウ** は、本文冒頭がヒントです。正答は⑥です。正答率は66%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑪)

傍線部 **A** は、本節最終段落の内容がヒントです。正答は⑤です。正答率は70%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑫)

傍線部 **B** の前段落、及びその直後の内容がヒントになります。正答は①です。正答率は72%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑬)

アジアとヨーロッパの都市の比較を行っている個所であることを意識しつつ、傍線部 **C** を含む前後の段落を押さえることが大事です。正答は③です。正答率は61%でした。

問8【文脈把握と指示内容に関する問題】(解答番号は⑭)

傍線部周辺の内容がヨーロッパの都市に関わることを理解していれば、直前の内容を指示していることがわかります。正答は④です。正答率は83%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は⑮)

傍線部 **E** は本文のまとめとなる個所です。すでに第一節最終行に「そこに住む人間、外部から来た人間が、どう気持ちよく使うかという点の公共サービスやアメニティへの配慮、いわば「歩ける」快適さが優先されるべきでしょう」とあるのがヒントです。正答は②、正答率は55%でした。

問10【小見出し】（解答番号は16）

正答は②です。本節の最終段落の内容に押さえる必要があります。正答率は37%でした。

問11【小見出し】（解答番号は17）

正答は⑧です。本節中には「都市の魅力度」について書かれています。正答率は28%でした。

問12【内容合致問題】（解答番号は18・19）

正答は④と⑤です。完全正答率は32%でした。①「報告」はされていない、②東京はパリの真似をしていない、③「道徳観」は問題にしていない、⑥「誰も持つことがなかった」は書かれていない、⑦「東京はその点を世界に対して発信しない」は書かれていない、⑧「都市の発展を見込んだ計画を立てている」が本文にない、以上の個所が本文と異なります。

一
一

出典 川北稔「砂糖の世界史」（岩波書店 1996年）

砂糖というひとつのモノを通して、産業革命や奴隷制度といった世界史のダイナミックな動きを描いた文章です。易しい文章なので、論旨を理解するのは難しくないでしょう。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は20～26）

a 封鎖、b 犠牲、c 人道、d 飽食、e 解釈、f 教養、g 原動力

全問正答率は2%でした。「飽食」を正しく書けていない答案が多数ありました。設問の指示にあるとおり「読みやすいはっきりした楷書体」で漢字を書けるように日頃から練習をしておきましょう。

問2【空欄補充問題・前後の文脈を把握する】（解答番号は27～29）

空欄Ⅰは、前行にある「手に入らないので、やむをえずそれで我慢をした」がヒントです。正答は⑤です。正答率は95%でした。

空欄Ⅱは、本文が砂糖きび糖とビート糖という二種類の砂糖が果たしてきた役割を歴史的に述べていることを理解できていれば正答を導くことができます。正答は③です。正答率は51%でした。

空欄Ⅲは、前行にある「マイナスの効果」がヒントです。正答は⑦です。正答率は85%でした。

問3【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は30）

前行にある「たとえば、そういうところで砂糖をつくることができればと考えた」がヒントです。正答は⑤です。正答率は70%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は31）

注を含めて「世界商品」の意味と砂糖きびと比較したビートのメリットを理解できれば、正答は②であるとわかります。正答率は57%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は32）

傍線部Cの段落の内容、特に「黒人奴隷の子孫たちで、いまも砂糖きびをつくっているひとびとはどうなるのでしょうか」の意味を読み取れていれば正答を導くことができます。正答は③です。正答率は82%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は33）

第11段落と傍線部Dを含む第13段落で説明されています。正答は④です。正答率は57%でした。⑤は「人間は自然条件にさからうことができません」が誤りです。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は34）

第14段落から第16段落の内容が国家間の経済格差と関連したものであることを読み取れていれば正答⑥を導くことができます。正答率は76%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は35）

傍線部Fに続く第20・第21段落から、砂糖が世界に与えた影響がどのようなものであったか、加えてその影響が現在にも影響していることを読み取ることができていれば正答を導くことができます。正答は②です。正答率は61%でした。

問9【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は36）

本節では、ビート糖と砂糖きび糖との関係が、「近代の科学技術」と「奴隷という強制的な労働力」「奴隷制度」を中心に論じられています。正答は⑤です。正答率は45%でした。

問10【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は37）

本節では、砂糖そのものが「世界商品」としての地位を失いつつあることを論じています。正答は④です。正答率は2%でした。

問11【内容合致問題】（解答番号は38・39）

正答は①と⑦です。①は第3・第4・第9・第13段落に、⑦は第14・第15・第21段落にそれぞれ記されています。正答率は15%でした。誤答の多かった⑨は、ハイチが「世界でももっとも貧しく民主主義からもっとも遠い国のひとつになってしまっていることは、砂糖の『世界商品』としての衰退を表している」および「軌を一にして」が誤りです。